

9. ガリウムシンチグラムにおける腎集積例の検討

陣之内正史 星 博昭 西川 清
 本田 浩 涌田 裕司 杜若 陽祐
 中山 幸子 渡辺 克司 (宮崎医大・放)

当院においてガリウムシンチグラフィーを行った 781 例を対象に腎集積例の臨床的意義について検討した。集積程度を椎体と比較低いものを+, 同程度のものを++, 高いものを+++と判定した。結果は+10.9%, ++2.1%, +++1.0%で集積のみられたものは合計 14%であった。腎集積例において腎病変のみられたものは, +では, 0%, ++では 25%, +++では 75%を占めており, 集積程度の高いものほど炎症, 腫瘍, 水腎症, 腎不全等の腎疾患を有することが多かった。また肝硬変で腎集積を示したものは 41 例中 19 例と多く, 腎疾患を有さない場合の基礎疾患としても肝硬変が最も多かった。

10. 肺癌に対する ^{67}Ga -ECT の臨床的評価

一矢 有一 鷺海 良彦 桑原 康雄
 綾部 善治 和田 誠 松浦 啓一

(九大・放)

肺癌に対する ^{67}Ga -ECT の臨床的意義を検討した。対象は治療前の原発性肺癌 36 例で, そのうちの 13 例は手術による確診例である。方法は ^{67}Ga -Citrate は 3-5 mCi 使用し Searle LFOV を用いて Conventional ^{67}Ga image を, 島津製 LFOV-E を用いて ECT 検査を行い, 両者の原発巣および所属リンパ節病巣の検出能について検討した。その結果, 原発巣および所属リンパ節病巣ともに, conventional image のみの場合と, ECT を加えた場合とでその検出能は全く変らなかった。以上の結果より, ^{67}Ga -ECT を加えても, 病変の検出能は向上せず, 現段階の ECT 装置では検査を行う意義は少ないと考えられた。

11. 腹部腫瘍における ^{67}Ga シンチおよび CT の比較検討

桑原 康雄 安森弘太郎 鷺海 良彦
 西谷 弘 一矢 有一 和田 誠
 綾部 善治 松浦 啓一 (九大・放)

腹部腫瘍に対するガリウムシンチおよび CT の検出能,

ならびに治療方針決定に果たす役割について比較検討した。

対象は, 腹部腫瘍を疑いこれらの検査を併用した 37 例である。

腫瘍の最終診断は, 開腹により治療が行われたもののみを腫瘍とし, 保存的治療のみで治癒したものは腫瘍なしとした。外科的治療を必要とした腫瘍に対する sensitivity は, ガリウムシンチ 88% (7/8), CT 100% (8/8) といずれも高かった。一方 specificity はガリウムシンチ 45%, CT 62% と CT の方がよい傾向がみられたが, 統計的に有意差はなかった。

治療方針に関しては, ガリウムシンチ, CT のいずれかの検査が陰性の場合には, 保存的治療のみでほぼ治癒可能であった。しかし, 両者が陽性でも保存的治療で軽快するものがかなりみられた。

座長のまとめ (6~11)

星 博昭

(宮崎医大)

演題 6: 肝シンチにて骨・脾のみが描出され, 肝への RI 取込みが認められなかったアルコール性肝障害の症例が報告された。

演題 7: ラット DAB 肝癌の ^{67}Ga -citrate 取り込みについて, オートラジオグラフィ, 病理組織学的検討が行われ, 腫瘍辺縁部の細胞分裂が活発な所に強い集積がみられた。

演題 8: 唾液腺における各種の良・悪性腫瘍におけるガリウムシンチグラフィーの有用性について検討された。

演題 9: ガリウムシンチグラムにおける腎集積例について, 集積程度を 3 段階に分け, その臨床的意義についての報告があった。

演題 10: 肺癌における原発巣および胸廓内リンパ節転移の検出能について, conventional ^{67}Ga -image と ^{67}Ga -ECT image との比較がなされた。

演題 11: 腹部腫瘍の症例における ^{67}Ga シンチおよび CT 検査の検出能や治療方針決定に果たす役割について比較検討がなされた。